



新しい企業の自己環境への新規システム

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

企業が自己経営を行うことは、世界の先端性や基準における企業構築を要求される。これらは健全な利益と企業環境を基盤とした世界との対等な企業構築において世界市場への参加を要求されるのである。

新しい生産環境は、IT システムにおける製品管理と自動生産システムなど、その品質要求の向上や、新しい企業システムにおける大幅な効率化を有する。これは製品流通などに対して製品番号の自動リーダーを整備することなど、製品の流通データ管理や、企業におけるこれらデータにおける製品判断と卸を提案するものである。これらビッグデータは、市場予測やマーケティングへのデータとした企業のデータ管理における企業経営を新たに可能とできるのである。

これらは新しい時代における生産と企業経営環境が大幅な変化を要求することを意味する。これらは既存現実からの変化を企業経営基準音転換において要求されることを意味する。

これらは企業効率性の向上が、先端生産システムとともに、途上国への工場の建設でなく、先進国における開発生産環境の設立を新たに提案するものである。その利便性と人件費コストにおいても、これら新しい生産システムと企業システムはペイするのである。

これらは未来において世界経済の実態が変化することを予測させる。今日の大きな変化はされなる未来を必ず創造するのである。

これらグローバル企業が自己のコアコンピタンスと企業環境を有することは、もはや中小零細が決して届かない現実を創造するかもしれない。これら企業システムの要求への到達が、企業の絶対的な安定化を与えるのである。

これらは企業努力という基盤における一つの企業の到達点であることは正しい。これらは企業が社会における需要への製品とサービスの提供において、現実の固定化を与えるのである。これらは他方においては企業の大きな資金力が、新たなビジネスの構築と創造を提案することを有する。これらは、明らかに現状の正しい認識であり、グローバル化という現実の有する真実なのである。